

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799200031		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター鶴見今津 認知症対応型共同生活介護 (パパイヤ)		
所在地	大阪府大阪市鶴見区今津南1-6-8		
自己評価作成日	平成29年3月8日	評価結果市町村受理日	平成29年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JikvovsoCd=2799200031-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中馴染みの関係を築き、お一人おひとりのペースに合わせてゆったりと寛いで頂きながら、ホーム内で役割を持って頂き、生活リハビリを取り入れ持てる能力の維持を図れる活気あるホーム作りを目指しております。行事には季節感を常に意識してお庭での家庭菜園や嗜好に合わせた献立メニューに工夫しております。地域のイベントにも積極的に参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、地域のふれあい喫茶や演奏会に利用者を出掛けたり、事業所で開催する祭りに地域の方が子供達を連れての来訪やボランティアによる楽器の演奏や舞踊の発表がある等、地域との相互の交流を深めることで事業所の認知度の拡大と利用者へのサービスの向上に繋げています。職員は地域の防災訓練に参加すると共に事業所での災害時の訓練を実施する際には実際に近隣の方を招くことで災害発生時の地域との協力関係の構築に努めています。家族の面会時や電話の他、年2回家族会を実施して家族からも広く意見を聞く機会を作り、要望を受けて耳鼻科の往診を開始する等、意見を運営やサービスの向上に活かすように努めています。長く勤務する職員も多く利用者や家族と良好な関係性を構築し、利用者の思いや出来ることを大切にしながら日々の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社は「誠意・誇り・情熱」の他法人のマナーアップとして7つの心得、事業所の理念が掲げられている	事業所設立後に作成した独自の理念を玄関やリビング等に掲示し意識付けをしています。従来の理念に新しく「自立支援」を追加し、朝礼や会議等で理念に込められた思いを説明しています。地域交流について話し合い、職員各々に役割を持ちながら利用者毎に担当を決めて支援に取り組むことで理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している為、定期的に回覧板にて地域の情報を得る等、交流を図っている。	町内会に加入し回覧板等で情報を得て、地域のふれあい喫茶や会館での演奏会、近隣で開催する祭りの出店に利用者とお出掛けしています。事業所で夏と秋に開催される祭りに地域の方や子供達を招いて交流したり、事業所の周辺の清掃活動を職員と利用者で実施し、その際に近隣の方との会話を楽しむ等、地域の方と交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月/1回ホーム会議を開き、話し合いの場を設けたり月々定期的に見学会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族様・地域ネットワーク委員会・地域包括支援センター職員・管理者が参加する運営推進会議を2ヶ月/1回開催されている。ホームの活動状況の報告や参加者からの要望・助言を得る機会としている。	会議は家族代表や地域ネットワークの方、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1回開催しています。事業所の状況を伝えたり感染症や事故報告を行い意見交換をしています。インフルエンザの対策を話し合ったり、居室の換気扇やエアコン内部の清掃についての意見が出され実施する等、会議を運営やサービスの向上に活かせるように努めています。会議の内容は家族会等で全家族に伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は連絡をとり対応している。	管理者が交代した際に挨拶のため行政の窓口へ訪問するとともに、行政から研修や連絡会等の会合の案内があった際には出来るだけ参加を予定し、行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームに身体拘束委員会を設置し、月/1回話し合いを実施。また職員研修にて教育を実施している。	年1回事業所で身体拘束や虐待に関する研修を実施して知識を身に付け、事業所内での身体拘束廃止委員会や日々の支援の中で事例を踏まえて身体拘束について説明しています。言葉かけにより行動を制止することがあればその都度注意し、フロア入口は常時施錠していますが必要性は職員に説明し、外出希望の利用者には傾聴や職員が付き添って外出して気分転換を図る等、閉塞感を感じないような支援に努めています。	

ニチイケアセンター見今津(パパイヤ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修の中での教育を実施し高齢者虐待について学び、虐待防止に努めている。また日々の暮らしの中での変化をスタッフ・お客様に対し観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の話をよく聞き、こちらからも十分な説明をし進捗の中での質問の有無を伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一度「家族会」を聞いて、ご意見・ご要望をお聞きし、また2ヶ月に1回運営推進会議にどなたでも参加出来るようにしている。お聞きしたご意見・ご要望は改善するように努めている。	家族の意見や要望は法人が年1回実施するアンケートや面会時、電話等で聞いています。また年2回家族会を開催して事業所で食事を食べてもらったり利用者として過ごしてもらい意見交換をしています。髪を切った際に残った毛が気になるなどの意見を受けて優先的に入浴してもらおう等、意見を運営やサービスの向上に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議の中でスタッフの意見を聞いたり、面談を通して話し合いを実施し、一人ひとりの意見を大切に、運営に反映できるように心がけている。	月1回のホーム会議やフロア毎の会議で職員から意見や提案を聞いています。ホーム会議では主に全体に関する話を話し、フロア毎の会議では業務改善等について話し合っています。意見を受けて業務内容やシフトを調整をする等、意見や提案をサービスの向上に繋げています。職員の様子をみて随時個別面談を実施する等、意見を聞く機会を多く作るように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談を通して相互理解を深め、向上心を維持出来るようにしている。経験に応じて介護福祉士、ケアマネジャーの取得推進をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内にて年間の職員研修スケジュールを計画し実施している。また外部研修の情報を回覧にて流して情報共有化を図っている。		

ニチイケアセンター見今津(パパイヤ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や交流を通して、質の向上を目指している。ニチイのグループホームは大阪にも多くあり交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中でのお困り事や不安・不満について傾聴する姿勢で対応するようにしている。訴えをそのまま受け入れ信頼関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお困り事を話しやすい雰囲気でお聞きするようにしている。話にくい内容等は思いに隠された内容がないかも注意してお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変に対応している。ご本人様とご家族様にとって何が必要かと考え提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの生活者の一員として、支えあう関係を心かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月/1回スタッフからの家族様へ近況報告を含めたお手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様やお知り合いの方もご面会はご自由にして頂いている。	友人や以前の職場の人等の馴染みの方の来訪時には居室に案内してお茶や椅子を準備しゆっくり過ごせるように配慮し、職員が利用者と来訪者の間に入って会話の支援を行うこともあります。家族と一緒に自宅や墓参り、馴染みの飲食店等に外出する方もいます。年賀状の代筆や返事を書く支援をする等、馴染みの人や場との関係継続の支援をしています。	

ニチイケアセンター見今津(パパイヤ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や入居者間の関係を理解することでスタッフが間に入り関わりを持つように努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要な方には対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の立場を考え意向に沿えるようにし、添えない場合も代替え案を検討する。	入居時に面談を行い生活歴や身体状況や趣味、嗜好等を聞き以前のケアマネジャーや病院からも情報を得て意向や思いの把握に繋げています。入居後は日々の中での利用者の言葉から思いや希望を汲み取り、意思疎通が困難な場合でも表情や仕草等からも検討して本人本位に思いや希望の把握に努め、申し送りや会議等で職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様に生活歴、趣味・嗜好等をお聞きしている。センター方式を活用してスタッフ間の情報共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子観察しスタッフ間も情報交換しながら現状の把握に努めている。変化があれば日常生活支援シートを更新する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の要望に配慮して介護計画を作成し、問題点や課題がある時は話し合いを実施しています。	アセスメントを基に作成された介護計画は利用者に応じて3か月から6か月の間での見直しを基本とし、3か月毎に計画作成担当者がモニタリングを実施するとともに利用者の状態に変化があれば随時見直しています。計画の見直し時には追記する形で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開いて話し合い、事前に聞いた家族や医師の意見も反映しています。日々の介護記録には計画の実施状況を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人ケース記録を記入し介護計画に役立てている。		

ニチイケアセンター見今津(パパイヤ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に変化があった場合には多角的に考え柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様の趣味嗜好を把握し、希望に添いスーパーや公園等に同行、利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては定期往診に来て頂き、要望があればご家族様に立ち会って頂いております。また随時ドクターと連絡をとれる体制にあります。	入居時にかかりつけ医を継続できることや協力医についても説明し選択してもらっています。かかりつけ医へは家族の対応で受診し、結果は口頭で確認しています。協力医は往診が月2回あり、緊急時は24時間対応で連絡が可能です。家族会での要望を受け全員が月1回耳鼻科の往診を受けている他、利用者の必要や希望に応じて精神科や眼科、歯科の往診や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と医療連携を結んで週/1回来訪頂き健康チェックを実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は主治医、病院関係者と情報交換と実施し早期退院に向けて取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様及び主治医と一緒に話し合うようにしている。またスタッフ間でも方針の共有に努めています。	入居時に終末期の対応について家族に希望を聞き、事業所として対応可能なことを説明しています。利用者の状態が進んだ際に改めて家族と医師、職員で話し合っ方針を決め、ケアカンファレンスでも職員間で話し合い方針を共有しながら事業所のできる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救急法の講習にも積極的に参加し、急変、事故発生時の手順については事務所に掲示し意識向上に努めている。		

ニチイケアセンター見今津(パパイヤ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと、避難訓練を実施、または地域の消防訓練にも積極的に参加しネットワークを広げる。	訓練は年2回昼夜を想定して実施し、内1回は消防署立会いの下利用者も参加して通報や避難誘導、水消火器を使用しての訓練を実施しています。訓練を実施する際はポスティングで近隣の方へ案内して実際に来てもらうと共に、地域の防災訓練には職員が参加しています。水や食料の備蓄を行い、フロア毎に非常持ち出し物品も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や生活歴を把握し、声掛け、介護、記録等プライバシーの配慮には特に心がけている。	年1回法人の接遇マナーに関する研修を受け事業所で伝達して全員に周知し、随時事業所でも職員間で話し合っています。利用者の立場で考えた言葉遣いや伝え方を工夫し、不適切な言葉かけが見られた時にはその都度注意しています。排泄や入浴の支援時は小声で声かけをするなど羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を重視した対応を常に心がけ自己決定できる環境を提供する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースに合わせた自己決定、要望を尊重できる支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月/1回訪問理容が来訪し、希望があればカット、毛染めなどをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが調理し家庭的なものにして出来る範囲で入居者様にもお手伝い頂いています。メニューについても希望をお聞きし反映しています。	法人の献立を参考にし利用者から希望を聞いてアレンジして献立を決めて事業所で調理し、利用者も食器拭きやお盆を洗う等の出来ることに携わっています。利用者の誕生日にケーキと一緒に買いに行ったり、ホットケーキなどの手作りおやつ、季節に合わせて家族も招いて流し素麺やバーベキューを実施する等、食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を日々記録しチェックして変化に応じ医療機関に連絡、相談し対応しています。また嚥下状態に合わせた食事形態で対応しています。		

ニチイケアセンター見今津(パイパイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアとして歯磨き誘導や声掛け、入歯の洗浄を実施しています。必要があれば訪問歯科を利用して頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導・オムツ交換・排泄介助時はプライバシーに特に配慮し、気持ちよく排泄頂けるように支援する。	トイレでの排泄を基本とし、利用者毎に排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、利用者に応じた声かけや案内を行っています。個々に合った排泄支援を継続することで失敗が減ったり紙パンツで過ごせるようになる等、排泄状況が改善した利用者もいます。朝礼等で個々に応じた支援方法や排泄用品の種類を検討し、排泄の自立に向け取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分量を把握し、時系列にてチェックしバランスをとっている。便秘については医療と連携し個々に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される方はできるだけ入浴して頂けるように支援しています。	午後2時から4時までの時間帯を基本に週2回以上となるように表を確認しながら入浴を支援しています。入浴拒否が見られる利用者には日時を変えたり職員を代える等声かけを工夫して無理なく入浴してもらっています。湯は1人ずつ交換し、入浴剤を使用したりゆず湯や菖蒲湯を実施する等、ゆっくり会話も楽しみながら入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全個室で施設可能なので安心して眠れる環境になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をファイリングし、情報共有し、症状変化については迅速は医療関係との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味嗜好に応じた支援(買い物・庭いじり・生花・等)を実施しています。また定期的にボランティアを含めた園芸会やイベントを実施しています。		

ニチイケアセンター見今津(パイパイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの庭、テラス、気候が良い時には公園等に散歩や買い物に出かけています。	気候の良い時期には散歩に出掛けたり、庭やテラスに出て外気浴を楽しんでいます。地域のふれあい喫茶に出掛けたり、初詣や桜の花見等の季節に合わせた外出を実施しています。出来るだけ外出や外気に触れる機会を持てるように支援しています。	遠出の外出を企画中であり、日常的な散歩も行きたいと考えられていますので、人員体制も考慮しながら、より外出の機会を増やされることを期待しています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物には同行し、個人のおこずかいより支払い、ご本人様ご家族様に明細をお伝えしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じて、ご家族様に入電したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下には季節感のあるディスプレイを施し窓には遮光カーテンにより日光を調整しています。	共有空間には生花を飾ったり利用者が書いた習字や行事の写真を掲示して温かい雰囲気を作っています。リビングの机や椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、廊下にも椅子を置き1人になれるスペースも用意しています。空気加湿清浄機を使用して利用者の体感も考慮して室温や湿度調整を行い、利用者もほうき掃き等出来る事に携わりながら毎日清掃を実施して快適に過ごせる共用空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下に入居者数以上の椅子を設置し自由に気の合った人同士で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具・寝具等はご家族様と相談しご本人様が使い慣れたものを自由にレイアウトしていただいております。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、テレビや椅子、机、人形、家族の写真等の大切なものを持ち込む方もおり、利用者と家族で相談して配置しています。日記を書いたり額縁に絵を飾って楽しむ利用者もおり、布団を敷いて休むことも可能でありその人らしく過ごせるようにしています。掃除は毎日実施し、温湿計を設置して加湿器を使用する等、快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は(居室・廊下・トイレ・浴室等)には段差なくトイレは大きく表示・風呂・廊下・リビング・トイレは手すりを配置、夜間は足元灯をつけ安全には配慮しております。		